令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

飛騨高山高等学校通信制課程

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	（1）「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 （2）社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3　評価する領域・分野	◇　教育課程・学習指導
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○一斉スクーリングではＩＣＴ機器を活用した学習活動や協働的な学びを行う機会を積極的に設け、それを苦手とする生徒には個別支援を丁寧に行ってきた。生徒・保護者アンケート共にその評価は高かったので、効果はあったと思われる。 ▲協働的な学びに対する評価は上がったものの、全く有意義だと思わない生徒も一定数いるため、生徒自身が、他者との関係を築く大切さを感じられる活動が必要である。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇個に寄り添った丁寧な個別指導を行う。 ◇卒業後の進路を視野にいれて、自己理解を促す。 ◇ＩＣＴ機器を活用した学習活動を行う。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主任を中心として情報を発信し、全職員で情報を共有し、共通理解のもとで生徒指導・支援にあたる。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）　使用教材の見直しや指導・支援の方法を見直し、生徒の実状に合ったレポート作成・授業を行う。 （2）　協働する意義やソーシャル・スキルを学ぶ機会を学校生活の中にも多く設け、自己理解を促す。 （3）　デジタルレポート提出の導入。	（1）　生徒および保護者を対象とするアンケート結果の分析（レポート・テスト等の関連項目） （2）　ソーシャル・スキルレポートおよび各行事でのアンケート分析、スクーリング時の観察 （3）生徒アンケートの結果分析

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・各教科でレポート評価基準を明確にし、客観性を高めた。	・分析結果がレポート・授業改善に反映しているか。	(A)　B　C　D
・生徒の作成したソーシャル・スキルのレポートを全職員で回覧し共通理解をもって指導・支援した。	・生徒の実態に合った指導・支援ができているか。	A　(B)　C　D
・デジタル提出を実践している学校から講師を招き、講義を受ける。今年度は２科目で試みる。	・レポートの提出状況に改善が見られたか。	A　(B)　C　D

12　成果・課題	○個々の生徒に適した指導・支援を行えるように、教員間で密に情報交換し、共通理解のもとで指導・支援にあたったことで、生徒の満足度が増したと考える。 ▲生徒の多様化が進み、特別支援的アプローチや医療的対応が求められるケースが年々増している。スクーリングとは別に、学習習慣を定着させる個別支援を行ったり、生徒理解のための職員研修を実施したりすることが必要である。	総　合　評　価 A　(B)　C　D

13　来年度に向けての改善方策案
個々の実態に合った学習計画を立て、保護者と連携を取りながら指導・支援にあたる。ＰＤＣＡサイクルを活用し、生徒が各学習期間に学習状況を振り返り、学習計画を見直せるように改善する。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月２６日

【意見・要望・評価等】
・これからは生徒がＡＩをどのように使いこなせるかが問われる。ＩＣＴ活用を意識した授業を活発に行って欲しい。
・一様な指導ではなく、個やケースに合わせた指導を心掛けて欲しい。